

## 令和5年度 第1回宮崎県観光審議会議事録

### 【事務局説明：新たな観光振興計画の骨子案について】

(委員)

- 宮崎ならではの目玉が必要であり、スポーツランドを強化していくことをお願いしたい。(宿泊は弱い。食も良いが全国にも素晴らしいものがある。) 代表合宿、サーフィンなど他県にないものを強みにしていった方がよい。
- ローカルアグリツーリズム、田舎歩きで外国人を呼んでくるなど、新しい観光も大事にしていきたい。
- 交通業界はコロナ禍による人手不足が深刻である。空港では保安検査員が足りていない。外国人労働者を雇用しないと解決できないのではと感じている。交通機関や宿泊施設が十分に稼働できておらず、観光振興の前提となるこれらの課題を解決しなければならない。

(会長)

- 計画をどう実行していくのか、人の部分で、どうしたら戻ってくるのかは非常に難しい。人口が少ない我が県においては深刻な問題である。体制を整えていくことが必要である。

(委員)

- 人手不足の問題は少しずつ回復させるしかないが、タクシーの需要は7割程度しか戻っておらず、元の人員を雇用できない。適正な料金をもらい、観光産業のトータルの収入を上げていく必要がある。

(会長)

- 県内の企業の資料を見ていると、サービス業が落ち込んでるのがよく分かる。物価が上がっている中で、賃金が上がっていない。観光消費にかけるお金は増えていると思われる。社会情勢のバランスを計画を進める中でも考慮いただきたい。観光を取り巻く体制、情勢について、県の考え方を聞きたい。

(観光推進課)

- 施策を進めるに当たっては、基盤となるものがなければ難しい。賃金を上げて雇用に繋げる好循環につなげていくことが重要である。稼ぐ産業とし、産業の体力をつけていくことが重要である。

(委員)

- インバウンドについて令和4年11月頃からアジアを中心に増えてきている。韓国は少ないが、団体旅行で香港、シンガポール、台湾が多い。AGTCの影響で欧米豪、ハワイ等のアメリカの方々も少しずつ増えている。
- 人手不足の問題で、宿泊の受入れができるかが課題である。1施設だけでなく、ホテル一体となって受け入れる体制が大切である。運営が追いついていない部分もあるが、今のキャパシティの中で最大限受け入れていきたい。
- トレセンでオーバー60のサッカーの大会があるが、数千名単位の県外客が来る中で、ホテル側に情報がなく、準備ができていなかった。スポーツランドみやざきを掲げる宮崎としては、受入側がタッグを組んで情報共有を図っていくことが大切である。

(会長)

- スタートダッシュをする時期において、情報共有の仕組みは重要である。

(スポーツランド推進室)

- 気がつかない部分があり非常に反省している。大会の受入れに当たっては宿泊の面も含めて情報共有できるような形を検討していきたい。

(委員)

- 人手不足の件について、地元の高校生は県外に出て行ってしまふ。観光も大事であるが、宮崎に住むことの魅力を発信し、人口を増やしていくことも重要である。

(委員)

- WBCの優勝は大変大きく、宮崎県の合宿はブランド化されたと考える。一方、合宿を見に来た人たちがもう一度来県するかが重要であり、国スポまでの3~4年が勝負であると考えている。
- 大会が開催されると、選手以外に家族や関係者が多い。大会会場で質の良い地元食材や市町村の特産品を提供するなどするともう一度来ようとなる。
- いろいろなつながり、ネットワークが重要である。インフルエンサーを活用して発信するなどの工夫が必要である。

(会長)

- 大会にきて応援も楽しいし、その後に飲みに行くのが楽しいと思われる。観光客は地元メシを食べたいという願望がある。

人が少ないなどの課題はあるが、団結し、工夫してやっていくことが必要である。

- SNSの発信は階層別に考えていかなければならない。

(委員)

- 日々の街の変化を取り上げて発信しており、県外の閲覧者が多い。ネットで検索して出てくるような情報は既に知られているし、インフルエンサーにも取り上げられている。

観光客は、地元の人が行くお店を求めているような実感がある。そういう意味では、私たちのようなローカルメディアを活用してほしい。

【事務局説明：令和5年度主要施策】。

(委員)

- アドベンチャーツーリズムについて、方向性が見えているものがあれば教えてほしい。

(観光推進課)

- アドベンチャーツーリズムの商品造成に向けて、これまで2年間、事業者と研修会を実施してきた。

高千穂は官民で協議会を立ち上げて取り組んでおり、現地の暮らしを体験できるようなコンテンツを開発しているところであり、今後商品化に向けて取り組んでいきたい。

また、九州観光機構が高千穂や霧島でモデルコースを作ってPRしようとしている。

(委員)

- 小林でアドベンチャーツーリズムを進めていた時に手応えを感じた。名水や霧島の自然など、活用できるのではないかと考えている。

(委員)

- アドベンチャーツーリズムで補足したい。ターゲットとなる欧米豪は日本のローカルな文化の体験を求めており、ガイドは通訳だけでなく文化を理解する必要があり、育成が難しい。

(委員)

- スポーツツーリズムを強化するに当たって、スポーツ医療の体制を整えていくことが良い材料になると思うが、考えを伺いたい。

(委員)

- スポーツメディカルについて、宮崎大学と連携して取り組んできたところ。また、スポーツメディカルフードを栄養士会に協力をいただいて進めている。
- スポーツランドは宮崎の強みであり、ハード・ソフト両面から徹底的に伸ばしていただきたい。観光は総合産業である。優先順位をつけてほしい。

(委員)

- 宮崎は海・山・川が全部そろっており、食・景観がそれぞれあることが宮崎ならではの強みである。(沖縄は海のイメージ)
- 他の地域との差をどのようにプロモーションするかがカギである。京都に外国人が多いのは日本を感じることができるからであり、その上で、郷土料理や地元に行った人にしか体験できない空間への動線ができています。
- 宮崎はサーフィンが有名だが、その後の食に繋がっていない。アクティビティで来た人を食に繋ぐことができれば、「今度は家族で来たい」などのリピートに繋がる。計画を実行する上で、宮崎ならではのものを繋いでいくという思いが必要である。

(委員)

- 先日のAGTCに参加して分かったが、ゴルフに加えて観光地や食事との組み合わせが求められている。

(委員)

- 予算をどのように効率よく使っていくかが重要である。特に観光施設等の基盤整備の部分で、受入れというのは設備だけでなく、飲食店の店舗やスタッフ、外注先も含めた全てが重要である。
- 外国人の人材に関しては、ここ10年で国籍がどんどん変わっている。日本や宮崎の賃金が低く、働くことが魅力的ではなくなっている。人材確保の部分で、部を越えて情報を共有していただき、観光にも人材がくるような施策を考えていければよい。
- 学生の合宿や修学旅行については教育現場の意見を参考とするなど連携が必要である。

(委員)

- 毎年、シンガポールとの学生の交流を20年以上続けているが、先日初めて大人を受け入れ、宮崎ならではの体験や武道の体験をしてもらった。宮崎の子どもたちも外国人に教える経験ができるなど好評であった。

○ 武道ツーリズムを受け入れる中で、一度来られた方が、習った先生にまた会いたいということで、リピーターとして来られる機会が多い。

反対に先生が海外に行った時に宮崎の良さをどうPRするか考えたり、語学の勉強をしたりするようになったという話も聞いており、そうしたつながりの重要性を実感している。

○ 海外のインターンシップの学生を受け入れているが、宮崎を好きになりSNSで発信してくれていて、違う目線から見た宮崎を感じている。

宮崎に来てくれた方にどのように好きになってもらい、どのように発信してもらうかが重要である。

(委員)

○ ここ1～3年は勝負であると考えている。

世の中はすごいスピードで変わっており、今何が起きているかという情報はオウンドメディアや個人が日々リアルで発信している情報も活用できるとよい。

(委員)

○ 宿泊業界は人手不足の問題もあるが、規模を縮小してでもやっていきたい。

○ 宿泊者のニーズが多様化しており、対応が難しいが、いろいろな選択肢を示せるようにしていきたい。

○ コロナ禍で大変疲弊している。宿泊業が活性化するような施策を講じてほしい。